

緩和ケアについて

1 緩和ケアとは

～ 病気に伴う心と体の痛みを和らげること ～
(厚生労働省緩和ケア推進検討会)

生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確なアセスメントと対処（治療・処置）を行うことによって、苦しみを予防し和らげることで、クオリティー・オブ・ライフ（QOL：生活の質）を改善するアプローチ。（WHOによる緩和ケアの定義）

痛みや呼吸困難などの身体的苦痛、仕事・家庭・経済的な問題によって起こる社会的苦痛、不安・うつ等の精神的な苦痛、生きる意味への問い・死への恐怖による霊的苦痛に対応することで、「その人らしさ」を大切にして療養生活の質をよりよいものにしていく。
終末期だけでなく、がんと診断された時から治療と同時に行われる必要がある。

2 緩和ケアの実施

緩和ケアは、入院・外来・在宅といった場を問わず、いずれの状況でも受けることができる。

(1) 緩和ケアチーム

緩和ケアに関する研修を終了した専従の医師等によるチームで、主のがん治療と併行し入院・外来において緩和ケアを行う。全国のがん診療連携拠点病院で設置されている。（他の医療機関でもチームが活動しているところあり）

※がん診療連携拠点病院

長野県内：11病院 松本医療圏：信州大学医学部附属病院、相澤病院

(2) 緩和ケア外来

通院中の患者に対して院内の緩和ケアチームが行う外来

(3) 緩和ケア病棟

がんの進行等に伴う体や精神的なつらさがあり、抗がん剤治療やホルモン療法、放射線治療等が困難である方や、これらの治療を希望しない方の苦痛緩和を行うとともに、外来や在宅への円滑な移行を支援する病棟

(4) 在宅緩和ケア

専門的知識を持った訪問診療医や訪問看護師等が協力し、病院と同じケアが自宅でも継続できるようサポート

3 緩和ケア病棟の特徴

- (1) 緩和ケアに精通した医師、看護師が、痛みや呼吸困難などさまざまな苦痛の緩和に対応
- (2) 患者家族の心の問題に時間をかけて対応
- (3) 家族が患者さんと穏やかに過ごせるよう、ソファベッドやキッチン、家族控え室等を設置
- (4) 対象となる疾患は、悪性腫瘍または後天性免疫不全症候群（AIDS）
- (5) 患者さん7人に対して看護師1人が担当

4 緩和ケア病棟の状況

- (1) 全国の設置医療機関数 360病院
(国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報サービスより)
- (2) 長野県内の設置状況
 - ア 愛和病院（長野市） 48床
 - イ 新生病院（小布施町） 20床
 - ウ 岡谷市民病院（岡谷市） 17床
 - エ 諏訪中央病院（茅野市） 12床

5 参考（緩和ケア病棟入院料の主な施設基準）

項目	施設基準等
1 入院対象患者	主として悪性腫瘍の患者又は後天性免疫不全症候群に罹患している患者
2 医師の配置	病棟内に緩和ケアに関する研修を受けた常勤の医師を1名以上配置
3 看護配置	入院患者の数が7又はその端数を増すごとに1以上
4 病床床面積	患者1人につき8㎡以上
5 病棟内設備	患者家族の控え室、患者専用の台所、面談室、談話室
6 病院	がん診療の拠点となる病院又は公益財団法人日本医療機能評価機構等が行う医療機能評価を受けている病院
7 地域医療機関との連携	在宅医療を担う保険医療機関と連携し、緊急時に在宅療養患者が入院できる体制を確保していること
8 連携医療機関への研修	連携保険医療機関の医師、看護師に対して実習を伴う専門的な緩和ケア研修を実施
9 入院料	30日以内 4,926点 31日以上60日以内 4,400点 61日以上 3,300点 (1点は10円)